

目指す学校像	「着実・勤勉・自主」の校訓に基づき、「人間形成」と「大学進学指導」を2本の柱とした教育を行う。
--------	-------------------------------------------------

重点目標	① 人間形成 ② 大学進学指導
------	--------------------

学校関係者評価実施状況	
実施日	令和6年 3月 23日
参加者	評議員及び父母の会代表 9名

評価	A 達成度80%以上	B 達成度60%以上
	C 達成度40%以上	D 達成度40%未満

※ 実施日とは学校関係者による評価が最終的になされた日とする。

学校自己評価					
	現状と課題	具体的改善策	達成状況	評価	次年度の課題
①	素直な生徒が多いが、他者への配慮、生活習慣の確立に不安のある生徒もあり、生徒個々への適切な支援が必要である。	講演会や学年集会、日々のHR活動、授業、部活動のなかで、生徒一人一人に対して、適切な支援を行う。	全体に対する指導は概ね行われているが、生徒個々に応じた支援が必要である。	B	生徒指導部が中心となり、目前の問題に対応するといった課題解決的な指導にとどまらず、生徒の成長を促すための、発達支持的生徒指導を充実させる。
	探究活動を行う過程で、発表の機会が飛躍的に増加した。また情報リテラシー教育を実施し、ICTツールを用いた発表の仕方も上達してきた。中学生から実施している「新聞ノート」を通じて生徒は社会と自己との関わりを意識することはできているが、今後はより自身の職業観を養うことができるような体験活動を増やし、生徒の探究的思考をさらに伸ばしたい。	高校の修学旅行を探究型プログラムに移行し、より探究的思考を伸ばせるように企画する。また、中学生の総合の時間に探究活動を盛り込むなどの取り組みを行う。	高校の修学旅行において、行き先の社会的課題を事前に考えたうえで、現地の大学生とフィールドワークを行うなどの経験を通して、探究的思考を伸長することができた。また、成人年齢に近づいたからこそ自身が将来どのような点で社会貢献できるかを考える契機となった。中学生の修学旅行を含む校外学習においても、総合の時間を用いて準備や実施後のプレゼンを行うなど探究的思考を伸長できた。	B	探究活動に対する理解を深め、より生徒の探究的思考が養われるように企画する。また、今年度多く実施した探究活動の効果を検証していくことが重要である。
②	大学進学を念頭とした進路活動を各学年で細分化して実施できているが、それらの連続性をより意識させた指導を行っていききたい。大学入試が多様化する中、生徒自身の強みを活かした受験の情報を家庭と学校で共有したい。	生徒の進路実現へ向けた3、6年間の具体的計画が確立されたので、進路希望調査や職業適性の早期分析を図る。また、学年に応じた適切かつ計画的な指導をすると共に情報発信を行う。	大学進学を念頭とした学年及び各生徒に適した進路探究活動が概ね行われた。	B	進路指導部による進路指導計画を次年度用に改善し、実効性ある具体的かつ組織的指導を展開する。

令和5年度 学校評価用紙（自己評価・学校関係者評価）

城北埼玉中学・高等学校

項目	評価項目	自己評価	学校関係者評価	
学校経営	① 教育目標	明確な教育目標を掲げ、その実現のために意欲的な取り組みを行っている。	B	B
	② 組織運営	校務分掌の運営は学校の実態に即し、円滑に行われている。	B	B
	③ 施設・設備	施設・設備は適切に管理・整備されており、定期的な点検を行っている。	C	B
	④ 危機管理	災害や事故の防止のための管理体制が整っており、対応訓練を適切に実施している。	B	B
	⑤ PTA活動	PTA活動を充実させるために、学校として努力している。	B	A
	⑥ 広報活動	保護者に学校の情報が届くよう配慮されている。また、受験生に対する広報も積極的に実施している。	A	A
教育活動	⑦ 教育課程	学校の教育目標に即した教育課程の編成がなされている。	B	B
	⑧ 教科指導	学校の教育目標実現のため、指導内容・指導方法を工夫している。	B	B
	⑨ 特別活動	ホームルーム活動・生徒会活動・クラブ活動が活発に行われている。	B	B
	⑩ 進学指導	生徒一人一人の志望・能力・適性に合わせた進学指導を行っている。	B	B
	⑪ 生活指導	生徒が社会規範に則った生活を送ることができるよう、適切な指導を行っている。	B	B
	⑫ 保健衛生指導	生徒の事故・病気に対する対応を適切に行い、同時に健康管理についての啓蒙に努めている。	A	A
	⑬ 学校図書館	蔵書の整備・管理は適切に行われ、読書活動の啓蒙に努めている。	A	A
	⑭ 国際化教育	国際化に対応した教育を適切に行っている。	B	B
重点目標	① 人間形成	生徒個々への適切な支援を行う。	B	B
		体験活動を増やし、生徒の探求的思考を伸ばす。	B	B
	② 大学進学指導	大学進学を念頭に各学年の連続性を意識させた指導を行う。	B	B

※自己評価は教職員、学校関係者評価は学校評議員・父母代表・同窓会代表による。

評価基準は肯定的評価80%以上をA、60%以上をB、40%以上をC、40%未満をDとする。